

第8次沖縄県医療計画の進捗評価について (小児医療)

令和7年1月
沖縄県保健医療介護部

第8次沖縄県医療計画指標（小児医療分野）の進捗状況

分野	指標数	進捗状況				
		改善	横ばい	後退	未実施	その他
分野（最終）アウトカム	4	0	1	0	0	3
中間アウトカム	9	5	1	1	0	2

※基準年と比較

改善した主な指標

(1) 中間アウトカム

➤ 小児科医医師数（小児人口10万にあたり）R2年 100.0人（244人）⇒ **R4年 110.8人（266人）**

後退した主な指標

(1) 中間アウトカム

➤ 第3次・第2次医療機関における小児救急受け入れ患者に占める入院患者の割合
R2年 8.3% ⇒ **R3年 7.7%**

1 一般小児医療を支える医療体制の充実【中間アウトカム】

指標1 小児科医師数（小児人口10万人当たり）

R2年 100.0人（244人） → R4年 110.8人（266人）
（内数）病院167人（68.4%）、診療所77人（31.6%） → 病院179人（67.3%）、診療所87人（32.7%）

・小児人口10万あたりの小児科医師数は、沖縄県及び全国ともに前回調査から増加している。

指標2 小児医療を実施する病院・診療所数（小児人口10万人当たり）

R2年 病院15.4か所 診療所69.6か所 → R5年 病院15.4か所 診療所72.6か所

指標3 診療所の医師数（小児人口10万人当たり）

R2年 31.7人（77人） → R4年 32.7人（87人）

2 小児救急医療体制の整備【中間アウトカム】

指標1 第3次・2次医療機関における小児救急受け入れ患者に占める入院患者の割合

R2年度 8.3% → R3年度 7.7%
R2年度年間受入患者数 42,031人 入院患者数 3,316人
R3年度年間受入患者数 46,604人 入院患者数 3,601人

指標2 災害時小児・周産期リエゾン任命者数

R3年度 0人 → R5年度 0人
R6年度（予定） 13人（内訳 小児6人（新生児科2人）、周産期7人）

1 圏域内で完結すべき小児医療提供体制の確保【分野アウトカム】

指標1 小児中核病院から県外への搬送症例数と内容把握(県内で完結すべき小児医療症例の整理) (R6年度調査)

R5年度 小児中核病院から県外への搬送数 → 8件

➤ 県立南部医療センター・こども医療センター 8件

No.	年齢	病名	搬送先医療機関
①	2歳	急性くも膜下出血	神奈川県立こども医療センター（神奈川県）
②	5歳	小児急性リンパ性白血病	神奈川県立こども医療センター（神奈川県）
③	1歳	早産児	自治医科大学附属病院（栃木県）
④	6歳	脳性麻痺	ボバース記念病院（大阪府）
⑤	2歳	特発性拡張型心筋症	国立循環器病研究センター（大阪府）
⑥	1歳	滑脳症	兵庫県立尼崎総合医療センター（兵庫県）
⑦	12歳	脊髄性筋萎縮症	徳之島徳洲会病院（鹿児島県）
⑧	2歳	低酸素性虚血性脳症	鹿児島県立大島病院（鹿児島県）

➤ 琉球大学病院 0件

- ・ No.⑤の「特発性拡張型心筋症」は心臓移植目的での転院。
- ・ No.⑦、⑧については県外から南部医療センターに搬送され処置が終わったため元の病院に転院した患者。
- ・ その他については、県外出身者の方や旅行で沖縄に訪れていた患者が居住地近くの病院に戻るための転院。

指標2-① 乳児死亡率（出生千対）

R3年 乳児死亡率 1.6人（23人） → R4年 乳児死亡率1.7人（23人）

指標2-② 幼児死亡数（0～4歳）

R3年 幼児死亡数 33人 → R4年 幼児死亡数 31人

指標2-③ 小児死亡数（5～14歳）

R3年 小児死亡数 14人 → R4年 小児死亡数 14人

3 在宅で療育・療養生活が継続できる医療体制の整備【中間アウトカム】①

指標1 医療的ケア児に対応できる病院・診療所数

R4年度 14施設（病院 5、診療所 9） → R5年度 調査中

指標2-① 小児に対応する在宅医療支援薬局数

R4年度 在宅医療支援薬局数 58か所 → R5年度 在宅医療支援薬局数 33か所

指標2-② 訪問薬剤管理指導実施薬局数

R4年度 訪問薬剤管理指導の実施薬局数12か所 → R5年度 訪問薬剤管理指導の実施薬局数32か所

指標2-③ 訪問薬剤利用者数

R4年度 訪問薬剤利用者数 225人 → R5年度 訪問薬剤利用者数 140人

指標3 小児に対応する訪問看護ステーション数

R4年度 全県74箇所（北部 5、中部27、南部36、宮古 3、八重山 3）
→ R5年度 全県78箇所（北部 2、中部27、南部45、宮古 2、八重山 2）

3 在宅で療育・療養生活が継続できる医療体制の整備【中間アウトカム】②

指標4 院外関係機関も含めた退院支援カンファレンスを行う病院数（R6年度調査）

R5年度 7病院

No.	医療機関名	退院支援カンファレンスに参加している関係機関
1	沖縄南部療育医療センター	○児童発達支援・放課後等デイサービスうみとたいよう（根差部店） ○児童発達支援・放課後等デイサービス咲心 ○那覇特別支援学校
2	那覇市立病院	○那覇市保健所 ○浦添市保健相談センター ○訪問看護ステーションeight ○訪問看護ステーションhappiness古島 ○グリーンハウス訪問看護ステーション ○はぴなす訪問看護ステーション浦添経塚 ○ゆずりは訪問看護ステーション ○ゆずりは訪問診療所
3	県立北部病院	○訪問看護 ○市町村保健師 ○健康増進課 ○医療機器業者 ○消防署 ○教育機関（必要時）
4	県立中部病院	○市町村保健師 ○中部保健所 ○訪問看護ステーション ○市町村障害福祉課 ○中部療育園 ○市町村の家庭児童相談員（ケースによって）
5	県立南部医療センター・ こども医療センター	○訪問診療所 ○訪問看護ステーション ○訪問事業所 ○学校 ○保健所 ○市町村役場 ○相談支援事業所 ○転院先病院 ○児童相談所
6	県立宮古病院	○訪問看護ステーション ○市役所（母子保健、障がいサービス） ○保健所 ○相談支援事業所 ○児童ディサービス
7	県立八重山病院	○学校 ○保健所 ○市町村役場の障害福祉課 ○訪問看護ステーション

2 こどもの状態に応じた療育・療養環境を整備するための医療提供体制が確保されている【分野アウトカム】②

指標1 訪問看護を利用した児の数（R6年度調査）

R4年 4,804人

- ・「訪問看護を利用した児の数」については、医療計画作成支援データブックを参考にしている。
- ・数値は、15歳未満の訪問看護利用者の療養費明細書の延べ件数から算出。

指標2 社会的要因による入院児数（R6年度調査）

R5年 0名

- ・「社会的要因による入院児数」については、NICUに社会的要因で半年以上入院している数を参考に指標の数値としている。（周産期医療部会の指標を参考）